

医療施設の内装材の選定基準は色彩、安全性、衛生面、そして「身体へのやさしさ」

フォルボ・フロアリング
ご導入事例紹介 vol.2

鈴の木こども歯科（千葉・流山市十太夫）

千葉県流山市にある「鈴の木こども歯科」は独自の「インテリア医学」理論に基づく医療施設のデザインを手掛ける、メディカルスペースデザイン株式会社代表取締役・水口真理子氏がコーディネートした最新の歯科医院です。水口氏が医療施設のインテリアを手がける上でもっとも気にかけている事のひとつである床材「マーモリウム」の選定ポイントなどについてお話をうかがいました。



からだにやさしい素材を求めて

医療施設において、インテリア素材を選定する際に何よりも優先すべきことは、身体に対する安全性、衛生面、そして清掃性に優れていることです。

私がこの仕事に取り組んで以来、さまざまな素材に出会いましたが、特に床材に関しては亜麻仁油、天然ロジン、木粉などの天然素材を原材料として製造されているリノリウムは抗菌性にすぐれ、静電気が発生せず耐久性、清掃性にも優れています。かつ、他の素材で生じていた問題がほぼ解消できるといった点において、優れた素材だと認識しています。

石油系の床材に比べ、ほぼ天然の素材だけで作られているリノリウムはまさに医療施設にうってつけの床材だと思います。



水口 真理子氏

目にも、身体にも優しい床材

これまでもさまざまなリノリウム床材を目にしてきましたが、その中でもフォルボ・フロアリングのマーモリウムはカラーバリエーションも豊富で他のインテリアとのコーディネートが容易なところも良いと思います。

今回採用した色も、異なる色が細かくバランス良くミックスされており、視覚的なやさしさ・やわらかさだけでなくソファや壁紙とのマッチングの選択肢を広げることができます。

「インテリア医学」とはインテリアが五感を通じてからだに与える影響を研究し病気の治癒においてどのような作用を及ぼすかというものを研究したのですが、医療施設の内装というものが患者さんに与える影響は想像以上に大きいのです。

鈴の木こども歯科医院もそうですが、院長先生の治療に対するポリシーをよく伺ったうえでカラーコンセプトを決め、床・壁・ソファや家具類のマッチングを行いデザインしていくのですが、特に床材については「マーモリウム」にラインナップされている色や柄、そして天然素材が持つ衛生面での安全性、耐久性などを総合的に勘案してご提案する機会が多いです。



待合室は目に優しくやわらかい色彩にコーディネート。家具とのマッチングの自由度も広がるマーモリウム。



クレームが無いことこそが評価

床材の多くは経年による伸縮や、摩擦などによる細かな傷に入り込んだ汚れが落としづらくなるといった問題点を抱えていました。ある程度の年数が経過すれば仕方ないことなのかもしれませんが、衛生的な環境維持が要求される医療施設では決して好ましいことではありません。フォルボ社製のリノリウム床材を採用いただいた多くの施設からいままでもクレームが一切出てこないどころか、むしろ感謝の言葉をいただいたこともあります。それは総合的に優れた床材であるという裏付けだと思えます。

今後フォルボに望むことは何でしょうか？

現在長尺シート状のものが主力ですが、できればタイル状の製品もあれば良いですね。レイアウト変更や機材の移動・増減などで傷んだ箇所を部分的に貼り換えできるようになれば良いと思います。

もうひとつは、「この医療施設では身体に優しい内装材を使っていることと・その理由を訪れる患者さんやご家族にわかっていたら嬉しいです。それは単なるPRというのではなく、「この施設が患者さんやご家族のために院内環境にどれだけ配慮しているのか」ということを知って頂くことにもつながるからです。

また、これから医療施設のインテリアを手掛けるデザイナー、設計の方々に、もっとリノリウムの良さを知ってもらえるよう、幅広い普及啓蒙を図って頂ければと思います。



鈴木悦子先生、鈴木昭院長先生、水口氏



抗菌性に優れメンテナンスの労力・コストも削減できるマーモリウム。



同系デザインで異なる色調のラインナップを持つ「marmoleum striato」を採用。待合室（写真左）はNo.5225、診察室（写真右）はNo.5227の組み合わせでコーディネート。統一されたデザインを保ちつつ、院内での区画の違いを表現している。